

橘定陸上部 21連続全国出場!

“最後”と“最初”の全国予選会で結果を残す

祝 全国大会出場

八月一日(月)〜三日(水)
駒沢オリンピック競技場で開催

夕子スポ

橘高等学校定時制
運動部通信
2022.6.23
第 109 号



都丸 有吾 (四年)
男子100M
予選 11"90
決勝 11"97

宅島 朝陽 (二年)
男子100M
予選 11"99
決勝 12"29
男子200M
予選 24"69
決勝 24"72

100M・200M 二冠を達成!



六月五日(日)、レモンダスタジアム平塚にて、全国定通制陸上競技大会神奈川県予選が行われた。本校からは都丸有吾(四年)、宅島朝陽(二年)の2名が出場した。都丸にとっては、高校生活最後の全国予選会、宅島にとっては、高校生活初めての大会となった。大会1週間前からの調整期間では2名とも70%程度の仕上がりにあったため、当日、どれほどのパフォーマンスを見せてくれるのか、一抹の不安を感じてはいた。

まずは男子100M予選。スタートダッシュを得意とする都丸は、後半70メートルあたりから左右を見る余裕を見せながらのゴール。続いて、宅島。2・3年生が4人いる組に入ったが、緊張して体が固くなることもなく、終始リラックスして走れ、1着でゴール。記録は11秒台にのせてきた。2名とも予選を1位通過で決勝に進出した。決勝では3レーンに宅島、4レーンに都丸と隣同士のレーンに入った。風は向かい風3メートルの悪条件であった。都丸、宅島共に身体が細身のため、向かい風に吹かれると、かなり不利となる。だが、予選の記録や走りを見ると、橘の二人で1・2位を独占する可能性が出てきた。スタートは予想通り、都丸の反応が一番よかった。隣のレーンの宅島も必死に都丸の背中を追っている。1秒間に8人がなだれ込む混戦となったが、都丸が優勝宅島が3位を確保するという大健闘だった。

200Mは宅島一人がエントリー。予選は上級生が6人いる組に入った。5レーンからのスタートであったが、第四コーナーを回った時点で宅島一人が抜き出ていた。余裕の走りで予選を1位通過した。その2時間半後、決勝が行われた。すでに100Mを2本、200Mを1本走っており、体力は限界に達していた。そんな状態だったが、レースに対する集中力は、他を圧倒し、1年生ながら見事優勝した。

今回橘の2名で、100M・200Mの二冠を達成し、本人たちはとても誇らしい表情をしていた。ただ、勝負は八月一日、二日、三日と東京の駒沢オリンピック競技場で開催される全国大会である。現状に満足せず、どん欲に更なる上を目指してほしい。なお、400Mリレーの神奈川代表として、都丸と宅島の2名が選出されたことを付記しておく。(陸上競技部顧問 松原謙二)

全国まであと一步...

第5位 第6位

令和4年度神奈川県高等学校
定時制・通信制卓球大会兼全国大会予選会

橘定女子卓球部

松島 佑奈 (三年)
右シエーク裏裏・両ハンドドライブ型

安部 清夏 (三年)
左シエーク裏表・前陣速攻型

Bブロック	1	2	3	4	5	勝-負	順位
	(相模向陽館④)	(日々輝神奈川③)	松島佑奈③	(横浜総合③)	(向陽台生働①)		
1 (相模向陽館④)		○	○	○	○	4-0	1位
2 (日々輝神奈川③)	x		x	○	○	2-2 (3-5)	4位
3 松島佑奈③	x	○		x	○	2-1 (5-3)	2位
4 (横浜総合③)	x	x	○		○	2-2 (5-5)	3位
5 (向陽台生働①)	x	x	x	x		0-4	5位

Aブロック	1	2	3	4	5	勝-負	順位
	(横浜修徳館②)	(相模向陽館④)	安部清夏③	(横浜総合④)	(向陽台生働①)		
1 (横浜修徳館②)		○	○	○	○	4-0	1位
2 (相模向陽館④)	x		x	○	○	2-2	2位
3 安部清夏③	x	○		○	○	3-1	3位
4 (横浜総合④)	x	x	x		○	1-3	4位
5 (向陽台生働①)	x	x	x	x		0-4	5位

4~6位 決定リーグ	1	2	3	勝-負	順位
	安部清夏③	松島佑奈③	(向陽台生働③)		
1 安部清夏③		x	x	0-2	6位
2 松島佑奈③	○		x	1-1	5位
3 (向陽台生働③)	○	○		2-0	4位

六月十二日(日)、横浜総合高校体育館にて、全国大会出場をかけた定時制・通信制卓球大会(女子)が行われた。

橘定卓球部からは松島佑奈(三年)、安部清夏(三年)の2名の選手が出場した。この予選会でベスト4以内に入らないと全国への道はない。2人ともこの三年間で、着実に成長してはきているが、厳しい大会になること言うまでもない。

まずは、五人一組のA・B・Cの各予選リーグで2位以上になることがまず初めの関門である。松島選手はBブロック、安部選手はAブロックで予選リーグ突破を目指す。両リーグともに、全国大会出場経験のある選手がおり、1位突破とはいかなかったが、二人とも練習の成果を発揮し、予選リーグ2位で無事に第一関門を乗り越える。

続く順位決定リーグ(4・5・6位)、ここで4位入賞すれば全国が決まる大事な戦い。同校対決となるシーンもあり、両選手共に健闘したが、残念ながら松島選手が5位、安部選手が6位という結果で全国大会に一步及ばず終わった。

しかし、彼女たちは昨年の秋大会では一勝することができた。選手としての成長を考えると、この三年間を本当に真面目に練習に励み成長したことが感じられる大会であった。今後とも彼女たちの成長に期待したい。

(卓球部顧問 島貫敬太)